

文化財保護センターだより

第15号

平成8年3月1日

財団法人 岐阜県文化財保護センター

〒500 岐阜県岐阜市司町1 (岐阜総合庁舎内)

TEL 058-264-1111(代)
FAX 058-264-0343

●もくじ

カラー	発掘現場から (船山北古墳群) …………… 1	ピクッス	飛騨 (西田遺跡) の土偶 …… 5
提 言	遺跡調査への期待 早川万年岐大助教授… 2	まとめ	平成7年度県内発掘調査 …… 6
調 査	今宿遺跡、堀田城之内遺跡発掘調査状況… 3	記 録	声 (牧野小山遺跡現場から)… 8
調 査	船山北古墳群、牛垣内遺跡発掘調査状況… 4		センター日誌ほか



発掘現場から

VRテクノジャパン造成予定地 (各務原市須衛町) 内の発掘調査は最終年度を迎えています。平成5年度からの調査で、古墳時代後期の古墳12基、平安時代～鎌倉時代にかけて操業した古窯3基、および中世～近世の土壙墓などが確認されています。古窯からは紀年銘入りの鉢も出土するなど、これまでに多数の貴重な資料が得られました。現場での調査も大詰めとなり、総勢80余名の調査員・作業員は遺構の精査や実測作業に追われています。

遺跡調査への期待



岐阜大学
教育学部助教授
早川 万年

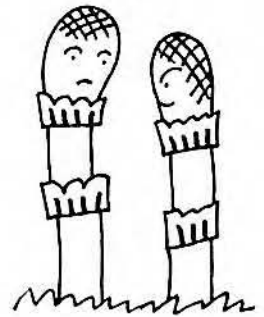
近年、ますます遺跡調査の件数が増え、私たちの身近なところで発掘が行われる場合も多くなってきました。もちろん、このような状況は、岐阜県だけのことではなく、実に多くの遺跡調査が全国各地で同時並行しています。ですから、考古学の分野での新しい知見は日に日に増加しており、調査報告書だけでも、毎年、夥しい数が刊行されています。発掘の成果に基づく研究も、さまざまな観点から重ねられています。各地の遺跡調査、考古学の進展によって、従来^{しん}の歴史認識に変更を迫るような事態も、しばしば見られるようになりました。

古代史学の分野と直接関連する事例でいえば、平城京跡から数万点という規模で出土しつつある「木簡」^{もくかん}によって、奈良時代史の研究に新たな局面が生まれたことがそうです。近年の小学校の教科書にも掲載されている埼玉県行田市の稲荷山古墳出土の鉄剣の場合も、ヤマト朝廷成立史の研究に大きな影響を与えました。これらの文字資料も発掘調査の中で見いだされたものである以上、基本的には出土品として扱われなくてはなりません。どのような状況で出土したのか、木簡ならばその形状など、遺物それ自体の正確な理解がまず大切です。歴史学の対象となる文字資料ではあっても考古資料としての扱いから出発することになります。

このように、古代史研究の資料を考古学が提供するという傾向は、今後ますます高まるでしょうが、文字資料に限らず、遺跡自体、あるいはそこ

からの出土品についての基礎的なデータが、正確に提示されることはきわめて重要です。研究はさまざまな観点からなされていますし、いま現在、はっきりとは認識されていないものであっても、将来、何かのきっかけでその重要性が浮かび上がるかもしれない。そのような情報が、すべての遺跡、遺物に含まれていることを念頭に置いておかななくてはなりません。遺跡調査への期待は、このような、将来に向かって隠されている部分も大きいのです。現実には、調査担当者は日々の仕事に追われ、出土遺物の分析に十分な時間をかけるのは難しいかもしれません。けれども、いちばん遺跡の実態を承知している調査担当者こそが研究の中心となるべきですし、それが可能となる条件整備は、これからのひとつの課題でありましょう。

遺跡の中には、マスコミに大きく報道されるようなところもありますが、ほとんど世間に知られないままの調査も少なくありません。それらは歴史の表舞台に登場しないような遺跡であるかもしれませんが、そこにも、過去の人々の生活の一端が示されているのです。遺跡、遺物の多くは、歴史上の「事件」を示すものではなく、むしろ、庶民の日常生活を語るものが多いはずで、そのような、歴史の中の「日常性」に、目を向けることの大切さを再認識させてくれるのが、遺跡調査でもあるように思います。



発掘調査状況



当センターでは本年度、地元関係機関や多数の方々のご協力をいただき、県下9市町村13遺跡で発掘調査を進めてきましたが、このうち4遺跡の近況をお知らせします。いずれも2・3年計画で行った発掘調査で、最終年度を迎えています。

■今宿遺跡 (大垣市今宿)

弥生時代後期より現代まで、異なった時代の水田面が複数重なる本遺跡の発掘調査は、ソフトピアジャパン建設事業に伴うものです。近現代・中



世・古墳時代の層を掘り下げてきましたが、本年度は弥生時代後期の層3面を調査中です。

◆低湿地での水田工作の知恵

調査面積のおよそ80%を占める水田遺構は、遺存状態がよく当時の水田の形態を知ることができます。大きな畦で区切られた大区画の中に、短冊状の水田が小さな畦で区画され整然と並んでいました。水田域には水路が設けられ、水利用の跡がうかがえます。水田の面積は、傾斜の緩やかな区域では広く、急な区域では狭いという具合に、水の動きに応じて区画され、しかも弥生、古墳時代を通じてこの形に変化のないことがわかりました。

同一地の異なった時代の水田形態を知ることができた今回の調査によって、低湿地帯で水田耕作を営んできた人々のさまざまな知恵にふれることができました。

◆住居跡や多量の遺物も検出

遺跡の西区には、集落域があり、数多くの遺構を検出しました。祭祀に関連すると思われる土器の密集区や、祠と思われる梁行の中央の柱が外側に飛び出した掘立柱建物跡3棟が確認されました。また、低い堤状の盛土と溝をめぐる堅穴住居跡3軒には、柱根が残されていました。銅鏃も4点出土し、本遺跡では5点目を数えます。

4月からは、整理調査を始めます。水田の遺構

図面や出土遺物を整理検討しながら、この地での水田耕作の移り変わりを明らかにしたいと考えています。

■堀田城之内遺跡 (岐阜市長良堀田)

岐阜環状線建設工事に伴う本遺跡の発掘調査は2年目を迎えています。

◆古墳時代の集落跡を検出

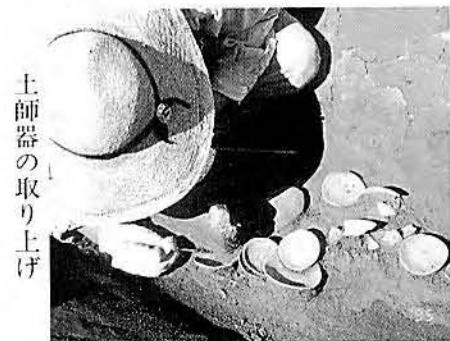
2月現在、古墳時代前期などの堅穴住居跡を20軒検出しています。住居跡からは多量の土師器と石製の紡錘車や管玉、そして土錘、炭化米などが出土しています。住居跡のほとんどは、異なった時期に建て替えが繰り返されていますが、この遺跡が長期にわたって繁栄した一大集落であることを物語っています。

◆古墳時代から鎌倉時代の集落の末端を確認

本遺跡は、平安・鎌倉時代の掘立柱建物跡や土坑なども確認できた複合遺跡です。今年度調査で埋没していた段丘の南端を確認することができました。傾斜して下がる段丘の崖の傾斜地には、灰釉陶器・山茶碗等が数多く棄てられていました。この段丘は、調査区の南約500mを流れる現長良川の旧地形と考えられます。

◆戦国時代の屋敷周辺部遺構を確認

昨年度の調査で、美濃国守護土岐氏の居館(枝広館)と屋敷地の周囲をめぐる溝と見られる、中世の溝を検出しています。今回は昨年度調査区の南側を発掘していますが、中世の溝の東南部分



が確認できました。なお、溝で区画される外側では同時代の遺構は確認されていません。

■船山北古墳群（各務原市須衛町）

本遺跡は、その名の通り古墳の存在は当初から明らかでしたが、それに加えて予想外の古窯の発見が相次いだことが驚きでした。これまでに計3基が確認され、いずれも厚いところで3mにも及ぶ土砂に覆われていました。

◆1号窯

1号窯は、西向きの斜面に位置し、その規模は全長7.15m、最大幅1.65mあります。窯の床面の土層を観察すると、崩落した天井が堆積していることから、天井が崩壊したことによって窯の操業を放棄したと考えられます。窯の下方に広がる灰原や土坑からは棄てられた不良品が大量に出土し、その量は5万点以上に及びます。これらの出土遺物から操業時期は平安時代後期と考えられます。

◆2・3号窯

2号窯と3号窯は、西向きの斜面に位置し、隣接しています。2号窯は全長8.35m、最大幅1.95m、3号窯は全長9.35m、最大幅1.95mの規模で



2号窯（右）と3号窯（左）

す。2基とも燃焼室の天井が残り、当時の形を残しています。この2基の窯は、短い期間に前後して操業していたと思われ、3号窯を造るときに掘り抜いた土が2号窯の灰原を覆っていることから、2号窯の方が古いと考えられます。出土遺物から操業時期は平安時代末～鎌倉時代初頭と推測されます。

◆美濃須衛窯をうかがい知る貴重な中世の窯

本遺跡の所在する各務原市須衛町は古代の須恵器の生産地として著名で、百余基の古窯が集中する地区です。平安時代以降その勢いは衰えますが、その中であっても継続した窯は特殊な製品を産出することが知られています。3号窯では、陶硯・

仏花瓶など特殊な製品が多く見られました。これら3基の窯は美濃須衛窯の性格を知るうえで貴重な資料といえます。

■牛垣内遺跡（大野郡丹生川村）

先に『きずな』第11号で紹介した縄文時代晩期を中心とする遺跡です。平成6年度には縄文時代後・晩期の土器片や石器などの遺物約4万点のほか、墨で文字を記した10世紀の墨書土器（灰釉陶器）も出土しています。

◆石壇をもつ住居跡を発見

本年度は、縄文時代中期の竪穴住居跡9軒が確認されるとともに、それに伴う土器や石器も数多く出土しました。竪穴住居跡の中には、埋甕を伴うもの、大型石棒を伴うもの、石囲い炉の中に土器を割って敷き詰めた「石囲い土器敷炉」なども検出されました。中でも特色あることは、住居跡内に石壇をもつものがあったことです。この石壇をもつ住居跡は、長野県や関東方面では発見されていますが、飛騨地方においては初めてのことで

す。また、本遺跡からは、縄文時代早期の押型土器片も多く出土し、県内では隣接する西田遺跡に次いで多いようです。

◆木杭も検出

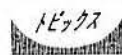
湧水地点より約25m下方の水辺を検索したところ、地表より約1.5m下から磨製石斧によって加工された木杭が検出されました。砂礫層の下の粘土層の中に打ち込まれた状態でした。材質はナラで大きさは長さ約40cm、幅約20cm、最大径約15cmでした。同時に出土した土器からみて、縄文時代中期後葉のものと思われる。これは木道（※）の



杭として用いられたものと想定されます。

※「木道」→ 低湿地を通行するための渡り板

飛驒（西田遺跡）の土偶 どぐう



写真は、大野郡丹生川村西田遺跡から出土した縄文時代後期の土偶です。本遺跡から出土した土偶は破片数で99点、個体数にすると74個体以上にのぼります。判別できる範囲ではすべて女性像です。安産と一族の繁栄を願った結果でしょうか、全国的にも女性像がほとんどです。

全体像がわかる土偶は1例のみですが、他のものも破片から推定できる形から、共通した特徴を見ることができます。

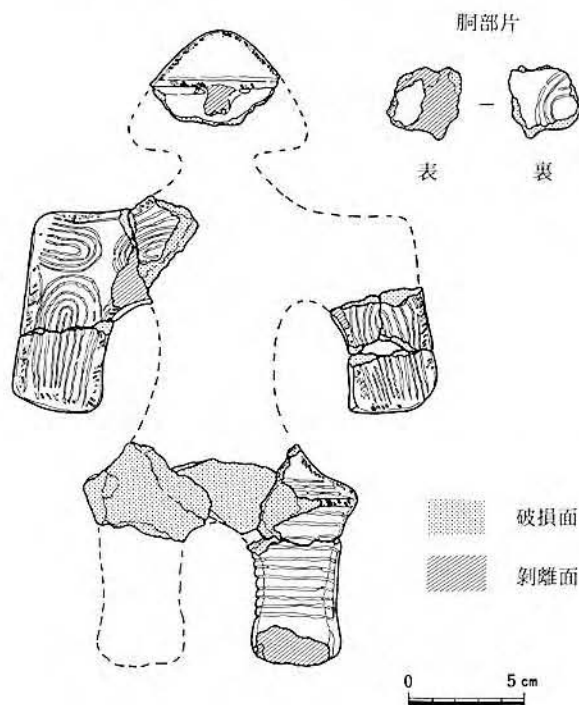
まず、頭部は山形の三角形で、眉と鼻をひと続きの隆帯で表現しています。また、顎も隆帯などで強調しています。首の裏には瘤状の突起、あるいは円形の沈線やくぼみがあります。頭や首に貫通した孔のあるものもあります。

◆関東の文化との交流を示す土偶

右の図に示した土偶は12個の破片からなり、西田遺跡の土偶の特徴をよく表したものの一つです。欠けた部分が多いのですが、推測される全体像は点線のようになると思われます。板状の作りで、立つことはできません。腰を横に強く張り出させ、いかり肩から腕を垂れ下げています。腕や肩の表裏にU字状の沈線を重ねて描き、足の部分は脚絆を巻いたようです。また、腕や頭の縁、肩、腰等の隆帯上には、細かい縄目文様が施されています。

この土偶の頭部の作りは、縄文時代後期に関東地方を中心として広く分布する「山形土偶」に共

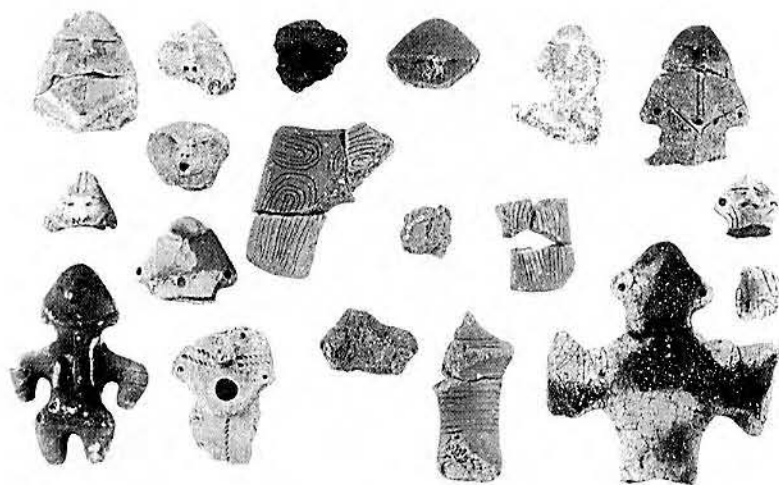
通点を見いだすことができ、関東との強いつながりを感じさせます。さらに、腕や肩、足などに描かれた文様や腰の張り出しなどは、後期前葉に関東を中心に作られた「ハート型土偶」の雰囲気ももっており、長野県などの土偶に似た点も見いだすことができます。



また、腰の作りは北陸で後期後葉から晩期初頭に広く作られた「板状作りの腰張り土偶」を連想させますが、精密でいていねいなこの土偶の文様構成は同時期の北陸の土偶には見られません。

この土偶も、いくつにも割れて出土しました。大半は2号住居内とその周辺ですが、右肩は北西20mほど離れた18号住居付近から出土しています。

土偶は完全な形のままで出土することはまずありません。このことから、土偶の機能として病気などの回復を願って意図的に割ったという考え方も以前からあります。



平成7年度 岐阜県内埋蔵文化財発掘調査 (平成8年1月31日現在届出)

遺跡名(所在)	調査主体(担当者)	調査の主な時代	主な遺構・遺物など
堀田城之内遺跡 (岐阜市長良堀田)	岐阜県文化財保護センター (三輪晃三)	古墳時代～中世	住居跡(古墳時代)、屋敷区画溝、掘立柱建物跡ほか 土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、管玉ほか調査中
城之内遺跡 (岐阜市長良城之内)	岐阜市遺跡調査会 (内堀・橋詰)	鎌倉、戦国時代	階段、溝(鎌倉)、建物跡(戦国)ほか かわらけ、施釉陶器、山茶碗、青磁、青白磁ほか
船山北古墳群 (各務原市須衛町)	岐阜県文化財保護センター (小木曾・市原・稲川・藤田)	古墳時代後期 ～鎌倉時代	群集墳、窖窯(平安、鎌倉時代)、土壇墓ほか 土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗ほか 調査中
野口廃寺B地区 (各務原市蘇原新栄町)	各務原市埋蔵文化財調査センター (渡辺・田中)	奈良時代	溝状遺構、土坑(瓦を投棄)、掘立柱建物跡ほか 軒平瓦(四重弧文)、軒丸瓦(複弁蓮華文)、須恵器ほか
村雨町遺跡A地区 (各務原市蘇原村雨町)	各務原市埋蔵文化財調査センター (渡辺・田中)	奈良時代後半	竪穴住居跡、鍛冶工房跡ほか 須恵器(墨書)、鉄滓ほか
今宿遺跡 (大垣市今宿)	岐阜県文化財保護センター (片桐・春日井・小塩)	弥生時代後期 ～古墳時代前期	水田跡、竪穴住居跡、掘立柱建物跡ほか 弥生土器、銅鏝ほか
米野遺跡 (大垣市米野町)	大垣市教育委員会 (高田康成)	弥生時代末 ～古墳時代前期	大溝 土師器、木製品(楯、鳥形、舟、刀形など)ほか
高塚古墳跡・矢道A遺跡 (大垣市矢道町)	大垣市教育委員会 (中井正幸)	古墳時代 ～奈良時代	前方後方墳の可能性(周濠あり) 土師器、須恵器ほか
桧遺跡・荒尾南遺跡 (大垣市桧町)	大垣市教育委員会 (鈴木 元)	弥生時代前期 ～中世	溝、ピットほか 弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、曲物、漆器、フイゴ羽口ほか
塚越遺跡 (大垣市河間町)	大垣市教育委員会 (高田康成)	平安時代	灰釉陶器
東町田遺跡 (大垣市昼飯町)	大垣市教育委員会 (鈴木 元)	弥生時代中期 ～古墳時代後期	溝状遺構(方形周溝墓の可能性)、竪穴住居跡 土師器、須恵器、砥石
昼飯大塚古墳 (大垣市昼飯町)	大垣市教育委員会 (中井正幸)	古墳時代前期末 ～中期初頭	葺石、埴輪列、周濠
庭田貝塚 (南濃町庭田)	南濃町教育委員会 (河野典夫)		範囲確認調査 調査中
高畑遺跡 (池田町片山)	岐阜県文化財保護センター (飯沼・大知)	弥生～奈良時代	築地塀跡と溝 軒丸瓦、奈良三彩陶器片ほか
二ノ井遺跡 (池田町片山)	岐阜県文化財保護センター (飯沼・大知)	弥生～平安時代	散布地 弥生土器、土師器、須恵器ほか 調査中
太郎ヶ城跡 (池田町本郷)	池田町教育委員会 (横幕大祐)	室町時代	試掘調査 堀、土塁 白磁、山茶碗、土師質土器ほか
美濃国府跡 (垂井町府中)	垂井町教育委員会 三重大学(八賀 晋)	奈良時代 ～平安時代	四面庇付礎石建物1棟、鍛冶工房跡、柵列、土塁ほか 須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、山茶碗、布目瓦、銅銭ほか
上原遺跡 (藤橋村徳山)	岐阜県文化財保護センター (中島・小谷・竹中・堀田)	縄文時代 平安時代	竪穴住居跡(前期)、中世墓ほか 縄文土器、石器、灰釉陶器ほか
寺屋敷遺跡 (藤橋村徳山)	岐阜県文化財保護センター (篠田通弘)	旧石器 ～縄文時代	旧石器集中箇所、焼土坑(縄文)、始良Tn火山灰層 ナイフ形石器、スクレイパーほか
弥勒寺東遺跡 (関市池尻)	関市教育委員会 (田中弘志)	飛鳥～鎌倉時代	掘立柱倉庫、礎石建倉庫などの建物群ほか 焼け米、須恵器(内面硯)、和鏡ほか
大門脇遺跡 (美濃市生櫛大門脇)	美濃市教育委員会 (高木宏和)		範囲確認調査 土師器、山茶碗ほか
沖ヶ島遺跡 (美濃市沖ヶ島)	美濃市教育委員会 (高木宏和)		範囲確認調査
渡来川北遺跡群 (美濃市大矢田)	美濃市教育委員会 (高木宏和)	弥生中期～中世	竪穴住居跡(奈良時代)、中世墓ほか 弥生土器、古式土師器、中世陶器ほか 調査中

遺跡名 (所在)	調査主体 (担当者)	調査の主な時代	主な遺構・遺物など
牧野小山遺跡 (美濃加茂市牧野)	岐阜県文化財保護センター (佐野・村瀬)	奈良 ～平安時代中世	竪穴住居跡、中世墓ほか 土師器、須恵器、鉄製品ほか 調査中
清水経塚 (可見市下恵土)	可見市教育委員会 (亀谷・吉田)	鎌倉末期～室町 江戸時代後期	中世の集石墓、経塚ほか 蔵骨器 (古瀬戸)、一字一石経ほか
徳野遺跡 (可見市下恵土)	可見市教育委員会 (亀谷泰隆)	古墳時代前期	竪穴住居跡ほか 古式土師器ほか
長塚古墳 (可見市中恵土)	可見市教育委員会 (吉田正人)	古墳時代前期	範囲確認調査 調査中
北小木大谷洞29・30号古窯跡 (多治見市北小木町)	岐阜県文化財保護センター (小木曾・小淵)	鎌倉時代 ～室町時代	窯窯 山茶碗、窯道具ほか
大原5号古窯跡 (多治見市幸町)	多治見市教育委員会 (立花 昭)	平安時代中期	窯窯 灰釉陶器
深山1号古窯跡 (多治見市大藪町)	多治見市教育委員会 (立花 昭)	平安時代末期	窯窯 山茶碗
明和40・41号古窯跡 (多治見市西坂)	多治見市教育委員会 (立花 昭)	平安時代中期	窯窯、作業場 灰釉陶器
平田遺跡 (多治見市大平町)	多治見市教育委員会 (山内伸浩)	弥生～中世	調査中
小泉4丁目遺跡 (多治見市小泉町)	多治見市教育委員会 (山内伸浩)	鎌倉～室町	調査中
北小木古窯跡群 (多治見市北小木町)	多治見市教育委員会 (桃井 勝)	平安末期 ～鎌倉時代	調査中
小名田西山3号古窯跡 (多治見市小名田町)	多治見市教育委員会 (桃井 勝)	鎌倉時代	調査中
寺平遺跡・正家庵寺跡 (恵那市長島町)	恵那市教育委員会 (三宅唯美)	奈良～平安時代	塔跡基壇 風鐸 (銅製および鉄製)、須恵器、灰釉、鉄釘ほか
中山第二団地縄文遺跡 (高山市下林町)	高山市教育委員会 (田中 彰)	縄文時代	竪穴住居跡、土坑ほか 縄文土器 (中期前半が主)、特殊磨石 (早期) ほか
上切平野遺跡 (高山市上切町平野)	高山市教育委員会 (田中 彰)	縄文時代 中期後半	遺物包含層、土坑 縄文土器ほか
高山城跡三の丸堀 (高山市城山)	高山市教育委員会 (田中 彰)	近世	三の丸堀 近世陶器、墨書のある柿板ほか
塚田遺跡 (国府町半田字塚田)	国府町教育委員会 (岩花・宮脇・林田)	古墳時代	竪穴住居跡、掘立柱建物跡ほか 土師器、須恵器ほか
安城寺遺跡 (国府町上広瀬)	国府町教育委員会 (岩花・宮脇・林田)	縄文時代 ～平安時代	竪穴住居跡ほか 縄文土器、石器、土師器、須恵器、灰釉陶器ほか
江馬氏城館跡 (神岡町殿)	神岡町教育委員会 富山大学 (宇野隆夫)	中世	城館の門前に掘立柱建物群・井戸・柵ほか 土師器、珠洲甕ほか
江馬氏城館跡隣接地 (神岡町殿)	神岡町教育委員会 (大平愛子)	中世	確認調査 野壺 土師器、青磁ほか
牛垣内遺跡 (丹生川村折敷地)	岐阜県文化財保護センター (伊藤・野村)	縄文、平安時代	竪穴住居跡 (縄文時代中期) ほか 縄文土器、石器、木製品、土師器、灰釉陶器ほか
カクシクレ遺跡 (丹生川村折敷地)	岐阜県文化財保護センター (上嶋・上原)	縄文時代	竪穴住居跡 (中期)、水さらし場遺構 (晩期) ほか 縄文土器 (中期～後期)
尾崎城跡 (丹生川村町方)	丹生川村教育委員会 (河野典夫)	室町時代	柱穴、溝、焼土ほか 調査中 中国製の青磁・白磁など陶磁器、石臼など石製品ほか



発掘作業に参加して

発掘は楽しい (1)

猛暑の夏をしのいだお陰で、秋からの体の身軽なことに自分でも驚いています。私は、発掘の作業は二度目ですが、所変われば土も時代も変わり、たくさんの新しい発見があります。

大昔の人々が生活したであろうと思われる所を探り、その遺物に触れる瞬間は本当に心躍るものです。一つ一つの遺物を手に取り、土器の模様を見たり、石器の加工の痕を見たりすると、生き生きとした人々の姿が浮かび、敬愛の気持ちがふつふつと込み上げてきます。岩石にも、地層にも、新しく興味が湧き、この歳になって大地の不思議さに胸を躍らせています。

センター日誌

- 10.31 愛知学院大大参教授、上原遺跡・寺屋敷遺跡指導調査
- 11. 7 垂井町教委原田氏、高畑遺跡視察。調査部職員河村、奈良文化財研究所保存科学基礎講座受講（～16）
- 9 可児市教委長瀬氏、牧野小山遺跡視察
岐阜市遺跡調査会山田氏、堀田城之内遺跡視察
多治見市北小本大谷洞29・30古窯跡、発掘調査終了
- 10 丹生川村教委・宮川上流事務所職員、カクシクレ遺跡視察
- 14 三重大八賀教授、高畑遺跡指導調査
- 16 岐阜大早川助教授、高畑遺跡関連指導調査
- 17 関市教委田中氏、高畑遺跡視察。同志社大森教授カクシクレ遺跡視察。
カクシクレ遺跡・牛垣内遺跡、現地調査終了
- 19 上原遺跡・寺屋敷遺跡、現地説明会（153名見学）
- 20 岐阜市教委内堀・橋詰氏、堀田城之内遺跡視察
高山市教委田中氏、飛驒出張所来訪
- 27 各務原市教委小林・西村氏、船山北古墳群視察
- 28 徳山ダム関連発掘調査納め式
- 30 岐阜大早川助教授・名古屋博物館掘山氏、高畑遺跡視察
春日村教育長森氏、本部来訪
- 12. 4 関テクノ関連試掘調査開始
- 7 揖斐土木事務所・関連土木事業者40名、池田町議員団40名、
岐阜県博物館大塚氏、高畑遺跡視察
- 11 西濃教育事務所菱田氏、高畑遺跡視察
- 13 愛知学院大大参教授、船山北古墳群指導調査
関市弥勒寺東遺跡関連の皆さん（26名）、高畑遺跡視察
- 19 愛知埋文鈴木氏、関テクノ現地視察
- 21 岐阜大早川助教授、高畑遺跡関連指導調査
- 1. 10 調査部職員大知、奈良文化財研究所寺院官術講座受講（～25）
- 12 宮内庁書陵部徳田氏、橋原考古学研究所廣岡氏、高畑遺跡視察
- 16 池田町教委横藤氏、高畑遺跡視察。文化庁記念物課土肥調査官・福井県埋文工藤氏・福井県金津町教委木下氏・同松岡町教委松井氏・古川町教委白川氏、飛驒出張所来訪
- 18 当センター飛驒出張所新庁舎開所式（来賓39名）
岐阜市遺跡調査会山田氏、堀田城之内遺跡視察
- 19～25 飛驒出張所にて速報展「飛驒のあけぼの展」（見学者600名）
- 21 各務原埋文センター渡辺氏、船山北古墳群関連指導
- 22 各務原埋文センター大熊氏、牧野小山遺跡視察
岐阜市教委高木氏、堀田城之内遺跡視察
- 23 池田町長久保田氏、高畑遺跡視察。飛驒教育事務所長森瀬氏他7名、
宮川村教委林氏他3名、飛驒出張所来訪
- 2. 6 岐阜教育大清田助教授、船山北古墳群関連指導調査
- 7 水資源開発公団徳山ダム建設所賀来副所長他2名、本部来訪

牧野小山遺跡発掘調査現場の作業員さん

発掘は楽しい (2)

30余年勤めた営林署の仕事が閉止となり淋しく思っていました。そんな折、今度は発掘作業が始まって勤めることができました。長い間苗木を育てて過ごした中で一つ一つ見つけた鍬や石斧の破片等を調査員さんに見せ、朝の打ち合わせ等で説明を聞きながら、今まで持っていてよかったな、私にとって何物にも代え難い宝物だ、と実感するようになりました。

毎日の仕事では、当時の人々の顔の形や服装、日々の生活等を想像し、ジョレンやネジリ鎌の手をひと搔きひと搔き運ばせています。今後も体調に気を配って仕事を続けていきたいと思っています。

■発掘のうた

いにしへ 古の人のくらし いにしへ 古の人のおもい
うつつみ 現身にこだまと響く うつつみ 現身にこだまと響け
木曾川の 木曾川の この段丘に

作詞 早川 瞭さん

あとがき

当センターの飛驒出張所新庁舎の開所式を、さる1月18日開催しました。折からの降雪の中にもかかわらず、飛驒地域の県会議員さんを始め、町村長・教育長さんなど多数の皆さんにお集まりいただきました。今後、調査量の増加が予想される飛驒地域における拠点として、地元の皆さんのご期待に応えるべく調査活動を進めていこうと決意を新たにしています。

本年度の調査活動もまとめの時期に入り、残す日数が気になります。酷暑の夏に続くここ数年にない大雪、出勤していただける作業員さんに感謝の毎日です。今回は美濃加茂市の牧野小山遺跡の作業員さんの声を掲載しました。

巻頭言は、古代寺院跡と確認できた高畑遺跡についてご指導をいただいた早川万年先生に寄稿していただきました。ありがとうございました。

なお、飛驒出張所の新住所は、

所在地 吉城郡国府町名張字峠1425-1

電話 0577-72-4784 となりました。